

2020年5月5日(火)

老球の細道540号

日本バスケットボールのルール変遷史③〈1980年代〉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

アメリカンルールからFIBAのルールに順じるようになったため、我が国のルールは五輪開催後の4年に一度原則的に毎回変更があった。80年代で特筆すべきは、バスケットボールゲームの歴史を変えた「3ポイントルール」の導入であった。3Pルールの導入は、当初身長の高いアジア諸国から歓迎されたが、後に欧州の巨人たちが長距離シュート技術をも身につけたために、あっという間に身長差のメリットはなくなってしまった。

この時代、まだ現役選手でアウトサイドシュートが得意であった私には絶好のルール改正であったが、ちょうどファイティングによる出場停止とアキレス腱断裂で休業時期にぶつかり、3Pルールの恩恵にあずかることなく引退となってしまった。

【1981年の主な変更点】〈1980年22回モスクワ五輪〉

- チームファールの制限回数が各ハーフ10回から8回に変更。(現在は1Q4回)
- コーチテクニカルファールが3回で失格・退場。(現在は2回で退場)
- ボールを保持する手をボールと一緒にたたくのは、ショット時でもファールではない。
- タイムアウトを請求しておけば、相手チームのフィールド・ゴールが成功したあとにも認められることになった。
- リーガル・ガーディング・ポジション、真上の空間の権利が明記された。
- ボールを投げ上げて移動し、そのボールが床にも他のプレイヤーにも触れないうちにボールをたたいてドリブルにつなげる「エア・ドリブル」は廃止された。

【1985年の主な変更点】〈1984年23回ロサンゼルス五輪〉

- スリーポイント・ルールが導入された。ファールされると3個のフリースロー。
- チームファールの制限回数が各ハーフ8回から7回に変更された。
- チームファールに対する罰則は「2個のフリースロー」から「ワン・エンド・ワンのフリースロー(1投目が成功すれば2投目が与えられる)」に変更された。(現在は2個に戻る)
- シュート・ファールの罰則であった「スリー・フォー・ツールのフリースロー」は廃止され、ショットが行われた場所に応じて2個または3個のフリースローが与えられるとなった。
- 30秒の途中で相手チームのバイオレーションがあり、攻撃側チームがスローインをして攻撃を続けるときは、30秒計をリセットしないで残りの秒数を継続する。
- 5秒ルールの罰則はヘルドボールからバイオレーションに変更され相手ボールとなった。
- スローインをするときラインを踏むことは、踏み越さない限り大丈夫になった。

【1987年の主な変更点】

- インテンショナル・ファール、ディスクォリファイング・ファールの罰則が「2個のフリースロー」から「2個のフリースローとボールの保持」に変更された。